

令和7年度第1回茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体会議録

議題	<p>1 生活支援体制整備事業の取組について</p> <p>① 各地区における取組について (第2層：茅ヶ崎市社会福祉協議会)</p> <p>② 移動支援について(第2層：茅ヶ崎市社会福祉協議会)</p> <p>③ 質疑・意見交換</p> <p>2 地域の社会資源(サロン情報)の活用について</p> <p>① 地域のサロン情報の収集と周知について(高齢福祉課)</p> <p>② グループワーク テーマ「情報の収集及び利用希望者とのマッチングについて」</p> <p>3 その他</p>
日時	令和7年7月28日(月) 13時30分から15時30分まで
場所	茅ヶ崎市役所分庁舎6階コミュニティホール
出席者氏名 (敬称略)	<p>松井 新吾、石黒 秀樹、若林 義道、若林 英俊、飯田 直士、川戸 茂、 菅谷 和一、石井 久美子、吉野 浩二、池田 富士夫、鶴岡 莞子、小山 紳一郎、松尾 由香、本多 祐子、奥村 千尋</p> <p>(欠席構成員) 瀧田 美穂、濱田 栄子</p> <p>(事務局等) 太田 雅世、三橋 史隆、原田 聡史、栢沼 玲也、小島 幸子</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体 構成員名簿 ・資料1：第2層地域支え合い推進員の活動報告 ・資料2：移動などの支援に関する検討について ・参考資料1：生活支援体制整備事業第1層協議体 構成員所属団体活動状況
会議の公開 ・非公開	公開
非公開の理由	—
傍聴者数 (公開した場合のみ)	0人

1 開会

挨拶 【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉課長：松尾 由香】

みなさまこんにちは。本日は、大変お忙しい中、また、大変お暑い中、令和7年度第1回生活支援体制整備事業第1層協議体にご出席賜り、誠にありがとうございます。

これまで生活支援体制整備事業第1層協議体では、担い手不足や買い物支援、移動支援、高齢者の孤立・孤独対策等について課題として取り上げ、各団体の皆様の取り組みについて意見交換を行い、悩みや知恵の共有を行ってまいりました。そのような中で新たな仕組みやネットワークが生まれるなど、形になるものがあらわれてまいりました。本日も皆様方の取り組みやアドバイスなど、意見交換を通じて、ぜひ実りある時間にできればと考えております。

さて、昨今カスタマーハラスメントに関する取り組みが各自治体や企業で始まっております。本市におきましても、この4月よりカスタマーハラスメント対応方針が策定され、市役所への通話を録音するなど、職員を不当な圧力から守り、行政サービスの向上を目指すこととしております。

介護業界における担い手不足が課題となっておりますが、高齢者ご本人やご親族からの暴言、暴力等の相談が介護事業者より寄せられるケースが増加しており、このような事案が介護従事者の離職のきっかけとなるケースも耳にするところです。

同様に病院でのカスタマーハラスメントも問題となっているとのことです。

地区組織の皆様方におかれましても、貴重な地域の資源のひとりとして、活動していただいていると認識しております。

担い手はどこかから湧いてくるものではなく、人的資源には限りがあります。持続可能な支援が必要とされる時代がやっていると考えます。

本日は、議題1としてこれまでの生活支援体制整備事業の取り組みについて、議題2として地域の社会資源の活用について、グループワークを行い、議題3その他の3部構成で進めてまいります。

よろしくお願いいたします。

2 議題

(1) 生活支援体制整備事業の取組について

① 各地区における取組について（資料1）

説明 【第2層地域支え合い推進員：原田 聡史】

資料1の第2層地域支え合い推進員の活動報告について報告させていただきます。

まず、第2層というのは、茅ヶ崎市内は13地区に分かれておりまして、13地区それぞれ

れの地区の単位を第2層と表現しています。

そこに茅ヶ崎市社会福祉協議会の職員、地区担当と言う者がおりまして、13地区それぞれに職員が配置されておりますけれども、その職員を第2層の支え合い推進員と表現しています。

市社協では、地区担当職員が13地区それぞれで地区支え合い推進員として、地域の皆さんの様々な活動に取り組んで参りました。

令和元年度の活動から、ネットワーク会議の中で進める課題や具体的な活動に繋がった例ですとか、引き続き地区などで話題になっている中で、取組の悩みどころになっている点について触れていきたいと思えます。

まず地区をとらえるところで、ネットワーク会議とは何かという方もいらっしゃると思うので、資料の点線の囲みのところに会議の目的が書いてあります。各地区で概ね月1回開催されている会議で、こちらを第2層の協議体ととらえております。

13地区でそれぞれ月に1回程度開催される会議で、出席されるのは地域の方として地区社協やボランティアセンターの方、民生委員、自治会関係、まちぢから協議会の皆様、あと地域包括支援センター、市からも地域福祉課の方が出席されます。あとは私たち市社協の地区担当職員、第2層の支え合い推進員です。

地区により、メンバーの構成は様々なのですが、このネットワーク会議を使って、その地区の個別のケースを共有したり、地域課題を考えたりと、活動のきっかけになることを目的にネットワーク会議を進めさせていただいております。

令和6年度、このネットワーク会議を通して、第2層の支え合い推進員が捉えた、取組の悩みどころをご報告させていただきます。

こちらは引き続き、担い手不足と高齢化というところが挙げられます。

以前からも挙げられておりますけれども、各団体で長年活動されていた方が、高齢化を理由に活動を引退されています。また、市社協の方で取っているサロンに関するアンケートでは、担い手が高齢者中心のサロンも多く、規模の縮小傾向も見られ、またコロナを終えて、参加者が戻らなかったため、参加者減からサロンの活動を閉じる予定というようにご回答されたサロンも見られました。

ただ、それで終わるのではなく、これらの活動を考えながら活動を見直したり、目的を再確認したりして、再出発の動きを見せている地区やサロンもありました。

そこで、資料に「情報共有と周知」と書いてありますが、地区の中で、地域の皆様が様々な活動をされていて、ミニデイサロンのサービス、地区ボラセンによるサービス、地区民生委員、地区社協、いろんな活動があるのですが、そういったものが、周囲にお住まいの皆さんに、情報が届いていないのではないかという声があり、情報伝達の方法に課題が見

えてきました。

ネットワーク会議の中でも、地区の情報を整理しまして、例えば、地区の中で展開されている活動の紹介のマップづくりなどを進めている地区だったり、学校の保護者説明会に出席して、地域の活動を紹介する場面を持ったりする地区もありました。

また、各団体の紙による回覧版ですとか、通信を発行されたり、紙媒体中心の広報から、SNSなどの、ネットを使った周知、ターゲット層に合わせた情報発信が必要だというふう
に把握したりしているところです。

こちらの下の図は、各地区が紙で発行している地区の活動の周知の場所という一例ですが、活動の取り組みの悩みどころとしてはやはり大きく2点、「担い手不足と高齢化」、「情報共有と周知」というところが、各地区における課題だったのではないかと
思っています。

裏面に移りますが、皆さんいろんな高齢化とか担い手不足という課題を抱えながらも、
取り組みは広げて、色々な新しい取り組みも生まれていまして、そんなところの取り組み
も広がりや、今年度力を入れたところについて、2点報告をさせていただきます。

一つ目は、子供も大人も集まる集いの場です。夏休み、今まさに地区で、この夏休みも
活動を始めていますけれども、夏休みに子供だけで過ごさなければならない家庭の子供た
ちのために、地区の中で、子供が安心して過ごせる居場所、保護者の皆様も安心して子供
を預けられる居場所をネットワーク会議などでの話し合いの中から、活動を見出した。そ
んな集いの場になっています。

ただ単に子供が預けられるとか、保護者が安心というだけではなくて、この生活支援体
制整備事業で狙っているところが、高齢者の方の活動の場とか、活動する機会の創出もね
らっているところなので、そういったターゲットに、シニア世代が支え手、担い手となっ
て活躍されている。そういうところがあって、この活動を継続されております。

学生のボランティアの参加や、高齢者ではない地域の大人の方、これまで活動に加わっ
てなかったシニアの方も募って、多世代に渡る交流の場が生まれています。この子供も大
人も集まる集いの場については、浜須賀地区では、はまかんこどものいえという名称でや
っています。海岸地区では、サマースペース海岸という名称、鶴嶺西地区では、つるにし
サマースペース、小和田地区では、フリースペースこわだという名称で、まさに今年の夏
開催をしています。

また、取り組みの広がりとしては、従前からの課題にありましたけど、外出、移動、買
い物などの支援に関する検討を継続しています。

普段の買い物や、地区の行事イベント等の外出・移動に困る人がいるといったことも引
き続き話題に上がっているのですが、ただ課題を共有するだけではなく、その課題に対応

するべく、地区社会福祉協議会連絡協議会等が連携しまして、令和6年度の2月の研修会では、すでに移動に関する取組が行われている地区の実践報告会を行いました。

湘南地区のおでかけワゴン、鶴嶺西地区のボランティアセンターの車送迎です。

特に13地区の中でも、外出、移動にまつわる課題解決の取り組みが活発ということで、湘南地区と鶴嶺西地区の活動の実践者の方にお越しいただいて、実践報告をしていただきました。

こうした研修会での共有のほか、第1層推進員と協力し、地区のニーズと茅ヶ崎市内の介護事業所等の協力のマッチングに向けて、この生活支援体制整備事業の中での取組を進めて参りました。

他地区での成功事例を参考にしながら、事業所への訪問やヒアリングを経てマッチングに向けた具体的な投げかけをしたところ、実際、事業所と地区の活動のマッチングに繋がったところもあります。後ほど栢沼からご報告をさせていただきます。

以上、表面で悩みどころとして挙げさせていただいた2点の課題につきましては、13地区それぞれの地区単位の課題だけではなく、第1層の皆様にも共通する課題だと思われま

す。そうした課題に対して、各団体ではどのように取り組まれているか、また、地区内や市域でのネットワークを活かして取り組むとしたら、どんなことならできそうか、皆様と一緒に考えて、これからの取組や広がりにつなげていけたらと考えています。

② 移動支援について（資料2）

説明 【第2層地域支え合い推進員：栢沼 玲也】

協議体の継続テーマとしております移動などの支援に係る課題についての動きを共有させていただきます。お手元に資料2をご用意ください。

最初に、資料の「令和6年度までの動き」ですが、ここに関しては前回の協議会でも内容を共有しております。後半の各地区での動きに関わる場所もありますので、振り返りをさせていただきます。

まず、令和6年の2月に、地区社会福祉協議会連絡協議会の中で、行政との懇談会が開催されました。その中で、生活場面における困りごとを確認するためのアンケートを実施いたしまして、それをもとに、懇談・意見交換を実施しております。

そしてその半年後、再度、地区社協連絡協議会で行政との懇談会を開催しました。今度は、そのアンケートの結果から見えた高齢者の移動の課題をテーマに懇談と意見交換を実施しています。

その中で、地域からですね、地域行事への移動支援に対して、市から事業所への協力の

呼びかけの依頼がありました。

この声を受けまして、早速、高齢福祉課で令和6年12月、市内の介護サービス事業所を対象とした説明会を行っております。

この中で地域より上がっているニーズを共有いたしまして、すでに取り組みのある松林地区の事例を参考に、住民等の福祉活動の支援について提案をして、各事業所にアンケートを実施しております。

そのアンケートの結果、6事業所から「協力ができる」「協力を検討できる」との回答を受けていて、その6事業所に対して、12月から翌令和7年の1月の間で、各事業所への訪問とヒアリングを実施しております。

ヒアリングの結果、具体的な連携に進められるという反応の事業所が複数ございました。

また、移動以外に対する協力の申し出というのも受けております。

一方、地域の方では令和7年2月に、地区社協連絡協議会研修会としまして、地区で取り組む外出、移動支援の取り組みについて、鶴嶺西地区のボランティアセンターの活動事例、湘南地区のおでかけワゴンの取り組み事例と、異なる形の取り組み事例を、研修会で事例報告しまして、各地区に持ち帰っております。また、アンケートで前向きなコメントいただいた6事業所のヒアリング結果の共有もしております。

ここまでの、今年度に入るまでの、動きとなります。

ここから令和7年度の動きで、新たに報告をさせていただく内容になります。令和7年度に入ってから数ヶ月になりますが、各地区で具体的な動きが生まれております。

まず茅ヶ崎南地区です。地区社協主催行事の参加者の送迎に株式会社ニッショウのグッドウォークという事業者にご協力いただく動きがありました。

茅ヶ崎南地区に関しましては、以前から行事会場の高砂コミュニティーセンターから距離のある地域、具体的には中海岸の3、4丁目と海に面している地域、あと若松町、地区の東の方の地域。その地域に住む方々に対しては、地区社協でタクシーを手配して移動を支援していましたが、迎車料金も含めて費用の負担が課題となっておりました。

そこで第2層推進員が出席する会議の中で、現状の整理ですとか、他地区の取り組みの共有などをしながら協議を重ねまして、地域の皆さんより、地区内の事業所でやりたいという声と、あそこだったら対応してくれるかもといった情報提供などにより、ニッショウグッドウォークに相談しております。

地区民児協の協力も受けまして、6月25日開催のお楽しみ交流会で、試行的に若松町の皆様、6名の送迎が行われています。

地区、事業所ともに、非常に好感触を得ていまして、次回以降さらに対象を拡大するほか、今回の連携をきっかけに、地域のサロンでニッショウさんが体操教室の講師をやれる

と、そういう話もあったので、依頼するような話も生まれております。

続いて小出地区になります。地区社協主催のサロンの送迎に社会福祉法人麗寿会、ふれあいの森さんが協力してくださいました。

こちらですが新型コロナによって休止していた地区社協主催サロン「ほのぼの小出」を再開したところ、以前参加していた方の中で、移動が困難となったことを理由に、参加を見合わせている方がいることがわかりました。

過去に開催していたときは住民同士で送迎を行っていたのですが、担い手不足の中で再開ができず、そこで協力を申し出てくださったふれあいの森の情報を高齢福祉課から情報提供いただき、包括支援センター中心に地域ケア会議などでの協議を経て、6月11日開催時に試行的に9名の送迎が実施されております。

今後まちぢから協議会の協力を得まして、次回以降、事業所との連携による送迎が実施できるよう、引き続き検討や調整を進めているところになります。

最後に南湖地区になります。

南湖地区に関しましては、まだ具体的な動きとまではなっていないませんが、移動に関する協議について取り組んでいるところでして、サロン参加者減の要因分析から事業所との連携の可能性の模索をしているところです。

具体的には、第2層協議体の中で、地区内サロンへの参加者が減少している課題に対して要因を探るため、地区単位でのアンケートを実施しました。

送迎の必要性についても検討しております。協力をしていただける6事業所及び地区内の数事業所にご協力いただき、会議にご参加いただき、情報交換などを行っています。

サロンの送迎については、これはまだ地区で、自前で行うというアイデアもあり、方向性が定まっていないのですが、この話の流れから、ふれあいの麗寿より、サロンなどを開催する場所として事業所を利用するという提案をいただいております。

12月ごろより拠点が不足するエリアに新たな集いの場を作るというアイデアも出ております。

南湖地区においても線路より北側のエリアにサロンの拠点が無いということが以前から課題として挙がっておりましたので、地域のふれあいの麗寿からの活用の話の前向きにとらえておまして、移動の支援というか、通える範囲に集いの場所を作るという方向性で、移動の課題に対して取り組みが進んでいるというところとなります。

継続テーマとしております移動等の支援に関する情報の報告は以上となります。

③ 質疑・意見交換

小山構成員：今、ご報告をいただいて、着々と、移動サービスの新たな展開に向けて進ん

でいるなどと思って、とてもうれしく思いました。

一点質問ですけれども、ネットワーク会議の中に、まちぢから協議会のメンバーが入っていることが多いと思うのですが、社協ないしは高齢福祉課と市民自治推進課の間での情報共有みたいなものについて、もしあれば教えていただければ、ありがたいと思います。

市民自治推進課にも、それぞれの地区担当がいて、まちぢから協議会の会議に出ていて、ネットワーク会議にも、まちぢから協議会の役員が出ていると思うのですが、行政の内部同士の横連携はどうなっているのかという質問です。

本多推進員：高齢福祉課の職員という立場で答えさせていただきます。高齢福祉課と市民自治推進課の横のつながりというところに関しては、必要なタイミングがあれば、随時連携を取るというところ、具体的には、湘南地区のおでかけワゴンのことですか、あとは、昨年度ですとサマースペースの関係で、横の繋がりというところ、地域包括支援センターを高齢福祉課が委託しているという関係で、各地区で地域包括支援センターの関わる部分で、市民自治推進課とは横の繋がりがあるところになります。

石黒構成員：連絡協議会の石黒です。よろしくお願いします。

介護事業所の6事業所が協力したい、できるかもしれないということで、空いている車を 使ってもいいよとの申し出だと思うのですが、担い手不足、高齢化、そういうところは介護事業所も、非常に同じような、課題があるところなので、共通の課題を見ながらお話を聞いていました。

さらに、アプローチしていくと、もっともっと、先ほど麗寿会の場所の活用といった申し出があったと思うのですが、そういったところまで細分化していくと、もうちょっと協力できるよっていう事業所も増えていくのかなと感じたところではあります。

川戸構成員：いくつかの地区で、法人の協力をいただいて、移動支援が始まっている、或いはもうかなり長いことやられているところもあるので、今、地区社協の中で、そういう先進事例を具体的に少し勉強して、それはできないにしても、何かそれぞれの地区の中で一部補助などできないかという議論を去年あたりからしています。また、法人も地区により偏在があり、ないところもあるし、また法人によって考え方もそれぞれで、一律にというわけにいかないのですが、それらを少し具体的に、進めていこうよという話をしています。

ちょっと話が先になりますが、移動支援を法人にお願いするにしても、1か

ら10まで法人にやっていただけるということでは当然ないですから、運転だとか、車両の提供だとかお願いするにしても、そのお膳立てとか付添いだとか、そういうことは当然地域の、地区社協なり、自治会なりでやっていかなきゃいけないので、そこら辺のところは依然としてまだ課題は残っているという風に思っています。

池田構成員：湘北の民児協の池田といいます。移動支援のことについて、報告を今受けました。

実は、事業者の社会貢献の一環として、こういった移動支援みたいなことのお話は、地域のネットワーク会議で、ちょっと前に話題になった記憶があって、すごくいい取り組みなのだなということで、今、実際に支援が動いているということがわかりまして、素晴らしいなっていうふうに思っております。本当にまず一歩なのだろうと思います。支援の場面が、サロン等のイベントへの往復のことなど、場面がまだまだ限られていて、本当に支援を必要としている方々の多々な多様な要求にこれから対応していかなくちゃいけないのだろうなと思っています。

これは、車は事業者さんの持ってくる車で運転手さんは違うのですよね。

栢沼推進員：はい、色々なやり方があると思うのですが、今回ご報告した2つの地区、茅ヶ崎南と小出地区の事例に関しましては、車両も運転手の両方とも事業所から出していただいているという形になります。

池田構成員：すごい社会貢献をされていることがわかりました。ありがとうございます。

太田推進員：少し補足しますと、車両保険なども、基本的に事業所側のものを使っている関係で、運転手を事業所の職員ではなくすることの方が難しいとおっしゃる事業所も何か所かありましたので、状況に応じてということはあるのだと思いますが、そのような事情もあるかと思えます。

菅谷構成員：今、車の関係、いろいろボランティア連絡会等でも出ていまして、私個人的に思うのは事業所をあてにしているのですよね。

そういう姿勢で今後進めていって継続ができるのかどうか、疑問に思いますが、その辺はいかがですか。

原田推進員：そうですね。おっしゃる通り、たまたま、今の事業所の責任者さんや事業所長さんだからできたという可能性は、もしかしたらあるのかもしれませんが、実績をしっかりと作って、事業所の方が、もし変わる時にも、そこは今後も連携しましょうと、このことについては、地区は引き続きお願いしたいということのを投げかけていくということで継続性を担保していくのは、必要なのか

なと思っています。

松尾議長 : 補足なのですが、移動というのは必ずしも事業所の車で移動するということが移動ではなくて、タクシーであったり、公共のバスであったり、ご親族の車であったりとか、そういったものも含めての移動という風に考えております。先ほど私の方から、持続可能という話をしたと思うのですが、すべてをボランティアで賄うというのは考え方としては間違っていると思います。

今回は行事、サロンですとか、地域での集まりに足を、たまたま事業者の方が車を出していただいたということで、ご協力いただいたところではありますけれども、もちろん日常のお買い物でスーパーに行くのであれば、ご自分でタクシーを呼んでいただいて、お金を払って移動していただくというのも一つですし、自分で歩ける範囲のところにバス停があるのであれば、頑張っ

て歩けるようになっていただいて、バスでお買い物に行ってくださいというのも一つだと思います。何もかもボランティアで賄うという考え方が、持続可能という点からいうと、おそらくボランティアさんの方で破綻しますし、事業者の方もそんなにはできないと思います。

先ほど申し上げたように、高齢者の側に対しても、やはり支援していただく方たちに対しての配慮、どのぐらいのことがしてもらえるのか、どういったことが本当にボランティアにさせていただく範囲内なのかというところをきちんと考えた上でやっていく、あと介護保険のサービスもありますし、それに該当するような体の状態であれば、きちんと介護保険を使っていただくというのが筋だと思いますので、そのような中で、その方に応じたサービスを使

本多推進員 : 支えあい推進員の立場で追加なのですが、今回の移動支援、もともと松林地区が始まりで、民生委員さんが、地域住民たちのニーズをまず把握して、そのような中で、私たち支えあい推進員の方で各介護事業所に地域貢献という形で協力できないかということで投げかけをしています。考え方としては、地域住民のニーズがある限りは、介護の事業者が変わったとしても、やり方が変わったとしてもニーズをどのように満たしていくかという調整を、私たち1層、2層の支えあい推進員が継続して、皆さんと連携してやっていくという考え方になるので、ニーズがある以上、継続できるように私たちも最善

を尽くすということかなと思います。

(2) 地域の社会資源（サロン情報）の活用について

① 地域のサロン情報の収集と周知について

説明 【第1層地域支え合い推進員：太田 雅世】

本日は、地域の社会資源（サロン情報の情報について）ということで、議題に挙げさせていただいております。

なぜ、これを議題に挙げたかといいますと、昨年度も参加されていた方々には、何度か話しをしておりますが、今、地域の社会資源についてということで、茅ヶ崎市暮らしを支える地域の情報サイトというところに社会資源の情報をまとめさせていただいております。

（スクリーン参照）これが茅ヶ崎市のトップページなのですが、このシニア向け情報というところに行くと、下の方に「暮らしを支える地域の情報サイト」というのがあり、この中に色々な情報が入っているという状況で今運用しております。

今までリニューアルや、昨年はこちらに買い物情報を加えるなどの取り組みをしてきていて、もしかすると、このサイトが変わりますということをお話してきたと思うのですが、現実的に、来年度から変わるということが確定いたしましたので、どう変わるかというところを今日ご説明させていただけたらと思っています。

こちらのサイトは、例えば、ここで買い物支援に行きますと、この中に色々な項目があって、この中で宅配弁当はというと、宅配弁当の会社が出てきて、開くと宅配弁当のお店の情報が地図を含めて出てくるといったようなサイトのつくりになっておりました。

こちらに関して、皆様から、「検索機能がないと使いにくい」「そもそも紙で印刷できなかったら使いにくい」など、ご意見をいただいております。

サイトは、かながわ福祉サービス振興会というところが運用しているのですが、そちらは介護保険の情報を提供している「介護情報サービスかながわ」というページも運用しております。来年度からは、そのページにこちらの情報もあわせて一緒に表示をされるようになります。

介護情報サービスかながわのページがこちらです。

まだ、新しい情報は入っていませんが、例えば、この介護事業所検索というところで、事業所名からの検索ができます。

本日ご参加の平和町介護サービスセンターを検索してみます。「平和町」とだけ入力しますと、訪問介護、居宅など、平和町とつく事業所が全部出てきて、すべてのデータからの検索ができます。

これが名前から検索する場合です。

逆に、介護サービスから検索という方法でいくと、例えば、まず市町村を茅ヶ崎市に限定し、自宅でサービスを利用したいと選択して、ケアマネジャーを探したいと選択すると、茅ヶ崎市内のすべてのケアマネジャーの事業所が出てくる中に、先ほどの平和町介護サービスセンターも入っているという結果になります。

また、このページを印刷したい時は、右クリックして、印刷を選択するとページを印刷することもできるため、一覧が欲しい人には印刷して紙で差し上げることもできます。

今までは、トップページに色々な項目があって、たとえば買い物という項目に行くと、次に、買い物の中の情報が表示されて、更に選択すると、深く選択していくことで、やっと情報が表示されるというのが、今までのサイトの仕組みでした。

これからのサイトについては、双方向からの検索ができます。

それぞれの事業所、例えば平和町介護サービスセンターには、ケアマネがいたり、ヘルパーがいたりします。A事業所はヘルパーもデイサービスもショートステイもやっています、C事業所はデイサービスとショートステイをやっていますと言う場合、事業所名からの検索もできますが、サービス種類のケアマネからの検索をかけることもできます。たとえば「ヘルパー」と検索したら、ヘルパーはAとBにいますよと表示されます。

そのようなイメージにサイトがリニューアルされます。

検索機能がつくことで、どちらからでも検索ができるようになる、というのが新しいサイトのイメージです。皆様のお手元に本日 iPad を置かせていただいています。実際に、検索もこの後体験をしていただけるようになっていきます。

このあとグループワークで話していただくのは、社会資源の項目はたくさんあって、今もサイトには何項目も載せていますが、全てについて話す大変なので、サロン情報に絞った形にします。

サロン情報をどのように掲載すると、実際にマッチングができるか、本当にサロンを使いたいと思っている人と、サロンのこんな情報が載っていて、こんな検索がかけられると、サロンが探しやすいとか、こういうふうなニーズがあるということを、まず伺っておくことによって、新たなサイトなので、作るときに、そのようなご意見を参考にできる可能性があると考えています。

かながわ福祉サービス振興会が、このサイトを作るので、私たちの意見がすべて反映されるわけではないのですが、このサイトを神奈川県内で一番使っていてアクセス数があるのは茅ヶ崎市らしいので、茅ヶ崎市の意見もかなり聞いてくれる可能性がありますので、意見として伝えていくことで、より皆様の役立つサイトになればいいと思っています。

先ほどの、そもそもサイトが使えないよという人でも、どこかで誰かがページを印刷してあげれば、使えるのではないかなど、フリーに色々なご意見をいただけたらと思ってお

ります。

②グループワーク

テーマ「情報の収集及び利用希望者とのマッチングについて」

説明 【第1層地域支え合い推進員：太田 雅世】

ここからは、今説明させていただいた内容を基に、情報の収集と利用希望者とのマッチングについて、グループワークを行っていただけたらと思います。

時間は30分ぐらいを予定しております。

皆様のグループで、どんな情報、こんな検索項目があればいい、これだったら提供できそう、誰が操作できそうなど、そのような話をしていただけたらと思います。

では進行ですが、名簿に○がついている方が進行となり、各グループに書記として事務局が入らせていただきます。

あと、発表の方を進行の方が決めていただけたらと思います。

どうぞよろしくお願いたします。

【グループワークの実施】

「情報の収集及び利用希望者とのマッチングについて」をテーマに、3つのグループに分かれてグループワークを行った。

【グループワーク結果の発表】

グループ1 発表者【茅ヶ崎高齢福祉課長 松尾 由香】

1グループでは、どのような機能があったらいいかということで、実際にサイトを開いて見たのですが、やはりちょっと階層が深くて検索しにくいなというご意見をいただきました。

ボランティア連絡会のご対象の方たちというのが、単なる高齢者というよりは、障害をお持ちの方、耳が聞こえないとか、目が見えないといった障害をお持ちの方ということが多いため、例えば音声機能がなければとか、言葉で検索する機能がなければ、なかなかそこまで到達するのは難しいというご意見をいただきました。

今度サイトがリニューアルする際には、ぜひ音声の読み上げ機能があったり、音声で検索できるような機能があったりすると、そういった障害がある方の利用ニーズも満たすことができるのではないかとご意見をいただいています。

あと周知が、まだやっぱりあまり知らないとおっしゃられていて、知っている方がいらっやらない。実際に支援者もお使いいただいているという実績はあまりなかったような

ので、もう少し周知が行き届くといいのではないかとのご意見をいただいています。

基本的に当事者というよりは、支援者向けに作られているという話を私の方からさせていただき、そうだね、健常の方が開いていかないと、なかなかここまでは到達できないかもしれないねというご意見をいただきました。

あと松井先生からは、障害をお持ちの患者さんが結構多いということで、障がい福祉課のアプリが、非常に利用頻度が高いというお話をいただいて、アプリだとすごく開きやすいとおっしゃっていました。

確かに、そのアプリからいろんなサイトに繋がっていて、一層一層開いていかななくても、アプリをポンと触れば、どんどん進んでいくということで、非常に使いやすいとお伺いしました。

今、障がい者の手帳などが、全部そのアプリに統合されていて、障害者手帳が直接視覚で見えるような形になっているということなので、障がい者だけではなく、高齢者もそのようなもので繋がっているとありがたいとおっしゃっていました。

それから、ボランティア連絡会の皆様から、いろいろ市に要望があって、いろいろ言っていたのだけれども、なかなか母数が少ない人たちの中で要望を出しているから、叶うことがあまりなくて、毎年毎年同じ要望になってしまっているというお話を伺い、そうだったのですねと認識させていただきました。

グループ2 発表者【シルバー人材センター 飯田 直士】

2グループですが、最初に出たのは、このサイトと申しますか、サロンとのマッチングを考えて、このサイトを使う人はどういう人なのでしょうというところから入りました。市のサイトまでたどり着かなければという視点で行くと、検索サイトを使って「茅ヶ崎 サロン」としてもなかなか出てこない、であれば、むしろこのサイトがさっきも出ましたが、利用する専門の方とか、そういう人向けにある程度までで、構成を作ってもいいのではないかという意見が出ました。

情報として、まずは、こういうものを探したいといったときに、地域の包括で相談してみること示すというのも一つの意見、情報のやり方ではないかというのが出ました。

次に、このどんな機能があるかというところなのですが、サロンのサイトに出ている情報で、サロンのサイトを見る人はどういう人なのでしょう。参加する人がどういう人なのでしょうと言ったときに、どういう視点が、見る側にあるのかというところで、男性と女性の方の視点があるのではないかという意見が出ました。その中で、例えば、自由に参加していいのかとか、参加費はあるのかとか、雰囲気わかるものがあるのかと言う意見が出ました。

それから、サロンでありながら、参加するだけではなくて、自分がサロンを運営する側に行くような、そういうケースもあるのではないかとか、そういう一つ一つの情報が、そのサロンのサイトにあれば、見る方がそれぞれに自分の興味を持った内容にたどり着くのではないか、この辺の作り方も今度サロン側でも、マッチングする上で考えてみてはどうかという意見がありました。

やはりちょっと問題なのは、多分参加されていた方がだんだんつらくなってきた時に、では、どうやって、サロンからフェードアウトではなく、留まっていただけのような、そういう取り組みに持っていけるようになれば、このサイトもいいのではないかと。そういう意見がありました。

グループ3 発表者【茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 石黒 秀樹】

3グループでは、まずサイトを見るターゲットはどんな人？というお話があり、実際にサイトを触って入っていきましたが、やはり支援者向けに作られているというお話がありました。

情報を誰に届けたいかという部分を整理していった方がいいのではないか、ということで、まず、サイトを使う人が、どういう形で使っていけば、より良いのかということで、周知をする必要があって、民生委員や地区のボランティアセンターの方が、研修を受けて使えるようになっていった方がいいよねというお話がありました。

次に、サロンの情報ですね、どこまでのものが載っているのかということが、営利非営利問わず個人でやっている本当に小グループの教室みたいなのところもありますが、そのようなもの、主だったものしか載ってないので、どこまで載せられるのかという話もありました。

また、サイトに到達するまでステップが多いので、結局教えてあげても、そこまで到達しない人が多いのではないかと話も出ていました。

そして、情報について、細かい情報が細分化されすぎているので、今の情報だと、施設の細かい割り振りとかもあるのですが、そういったところまで本当に必要なのかという話が出ていました。

それから、検索のワードについて、「茅ヶ崎市 サロン」でも、出てこないもので、その辺の検索の方法も、こういったキーワードを入れると早く出てくるということも周知が必要ではないかというお話もありました。

あとは、まちぢから協議会のホームページにも、細かい情報が出ているようなので、そのようなサイトのリンクを貼ってもいいのではないかとということと、ボランティアセンタ

一とか地域包括支援センターとか、そういった相談を受けるところに、わかりやすく QR コードとか、URL だとか、そういった二次元コードを貼っておいて周知するのも一つではないかとの話もありました。

サロンの情報は、市社協さんに問い合わせが来ることが多いそうなのですが、私もケアマネジャーをしていて、社協さんに何かいいとこない？と相談したことがあるのですが、そのようにサロン＝社協のイメージも強いのかなといったところでの話もありました。

地区の人しか知らないような情報もあるので、地区ごとに持っている情報をまとめて、自治会で運営しているサイトもあるので、そういったものを周知していく。

松浪地区ですかね、趣味の冊子がありましたよね。ああいうものがすごく活用しやすいので、本来であれば紙ベースの方が、手に取りやすいといった話もありまして、今その趣味の冊子もサイトになってしまったようなのですが、更新の手間もあるので仕方がないのかなということですね。

地区で、情報を集約しているところがあると、サイトや、このような居場所といったところが周知しやすいのではないかという話になりました。

【議長：松尾 由香】

皆様ありがとうございました。

いろいろ貴重なご意見をいただいて、大変助かりました。

私たちも参考にさせていただいて、また改めて、これからのサイトのリニューアルに向けて、色々検討していきたいと思います。

あと、様々な団体の皆様の、それぞれが対象にされている方によって、視点が非常に違うなというふうに思いました。

普段、私たちが役所の中にいると気づかないようなお言葉をいただきまして、障害をお持ちの方たちが、このような視点があれば、さらに生活がしやすくなるということですか、このような検索の機能が活用できるというようなアドバイスをいただきまして、やはり私たちが普段仕事をしている中だけでは得られない情報をたくさんいただいたと思っております。

本日いただきましたご意見につきましては、構成員の皆様が所属する各団体等に持ち帰っていただきまして、改めて情報共有していただくとともに、各団体等からのご意見ありましたら、また改めて、第1層の地域支えあい推進員である高齢福祉課の方にフィードバックいただけると幸いです。

(3) その他

【事務局】

では事務局より、今後の予定についてご連絡いたします。

サイトのリニューアルに向けて、サイトを運用しているかながわ福祉サービス振興会の方と連絡をとりながら進めていくとともに、今年度の1月の下旬に第2回の会議を開催したいと考えております。

会場の関係で、1月下旬の会場が取れるのが11月の始め頃になりますので、また皆様にメールで日程のみ先にご連絡させていただいて、準備をさせていただくというようなスケジュールで考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

3 閉会

【議長：松尾 由香】

本日は、ありがとうございました。

今後も皆様からより一層のご協力を賜れば幸いです。

以上をもちまして、令和7年度第1回茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議会を終了いたします。

(以上)